

一般質問

代表質問



川原 春夫 議員

市民サービスの向上について

Q 公共交通（乗合いタクシー、基幹バス）の拡充（課題克服に向けた今後の方向性あるいは改善点）はどうか。

A 総務部長 市長からの指示に基づき、調査を進めてきました。その結果、基幹バスの拡充策として3つの具体案を検討中です。

1つ目は、路線変更で、根蔵、宮前、姫島方面の大型商業施設を含む商業圏や、付近の医療機関への通院を可能にする対策です。

2つ目は、やはり路線変更で、国道126号線からココロラの前を通るというルートの検討を進めます。新たな利用者の確保、利便性の向上が主眼です。

3つ目は、路線の延伸で、山武北小学校方面への運行ルートについて、調査実施の予定です。

Q 広報誌「さんむ」の配布率向上についてはどうか。

A 市長 恐らく新聞の購読数もだんだん減ってきているかもしれません。時代の流れの中で、インターネットへの移行といった意味では、多くの市民の中で、むしろホームページその他を参考にしていく方も多いと思っております。調査の方法をかなり検討する必要がありますが、どのような形で情報が届いているかということについて

では、調査をする必要があると考えています。協働と交流によるまちづくりについて

Q 市職員の市民協働の意識向上についてはどうか。

A 市長 全ての職員が、市民協働、市民とともに地域を作っていく時代であるということを理解して、ともに地域作りに励んでいこうということとを理解していなければ、市の行政は成り立たないという意味からすれば、全ての職員が市民協働についての重要性を理解しているということが、当然のことだと思います。

Q 協働と交流を視座にした「スタディランチ」松尾高校の、開催の理由・意義・継続性はどうか。

A 総務部長 開催に至った理由は、松尾地域の賑わいを創出する地域作りの一環です。松尾高校はこの地域の核であり、松尾高校の魅力をさらに高めていくため、地域、高校及び行政の協働

により、一体となった取り組みが必要であると考えています。また、グローバル化が進む中、英語が話せることが、ますます大切な時代との認識に立っています。継続性については、アンケートでも大変よかったですとの答えが90%を超えており、例えば「将来は、自分の仕事で外国と結びつきたい」と思いました。今回は自分を知る



スタディランチ in 松尾高校の様子

Q 教育委員会で、高校生を対象に、この

よくな取り組みを検討される気持ちはないか。また市内在住の外国の方の力もお借りしながら、英語を通してのコミュニケーションの機会を検討してはどうか。

A 教育部長 提案いただいた英語体験プログラムを含め、ALTを活用しながら学校現場と前向きに話し合いを持ち、時間、方法を含めて、検討をしていきたいと思っております。

Q 太陽光発電のパネル設置に対する行政の考え方、関わりについてはどうか。

A 市長 特に福島の原因の事故、また、地球温暖化の問題から、太陽光発電その他、自然エネルギーを利用した発電に力を入れなければならないという、国の基本的な方向性の中で、この買

よい機会でした。」といったような感想もあり、今後は、高校と協議をする中で、基本的には継続していきたいと思っております。

A 教育長 グローバル社会で生きていく子どもたちにとって、必要な教育だと思います。積極的に進めたいと思いますが、既にある教育課程もありますので、特別プログラムとしてのイングリッシュキャンプですとか、ALTを活用した学校現場での取り組みといったものを検討していきたいと思っております。既存の研究・授業を充実させながら、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

討をしていきたいと思っております。

を

を

を

を

を

を

を

を

を